

( 様 式 )

### 産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）構想等調書

#### 1. 応募者

・機 関 名 称：青山学院大学

・機関の長（職・氏名）：学長・伊藤定良 印

・事業実施組織名称：青山学院知的資産連携機構 知財クリニック

・調書責任者  
 所 属：青山学院本部総合企画部 事業開発・推進グループ 知的資産連携機構  
 役職・氏名：係長・竹田由美子

#### 2. 事業計画の審査区分

審査区分	①国際	②特色					③基盤
		特定分野	事業化	地域	大学等間連携	人材育成	
							○

### 3. これまでの主な取組と現況

#### 1. 大学創出の知的財産の調査と組織の設置

1996年当初、国の知的財産戦略が特許権の管理を中心としてスタートしていたため、青山学院も同様に、発明が完成してから特許権として活用され事業が成立するまでの各ステージにかかる年月および経費・リスクを視野に入れて慎重に調査検討した。結論として、技術評価とリスクマネジメントが事業継続の鍵になると判断し、大学の特徴を活かした戦略的組織を構築することによって、発明から事業化に達するまでの息の長い継続性を確保する構想を計画した。さらに、特許権を含む知的財産権の範囲を越えて、知的資産の範囲を扱うことを組織的に確認した。

そこで、法人職員と大学教員、大学職員による知的資産整備準備プロジェクトを立ち上げ、大学が創出する知の性質と適切な活用方法、学院内への啓発方法の検討を始めた。そして、2005年学校法人経営執行部理事長を機構長とし、知的財産担当常務理事を議長とした青山学院知的資産連携機構を設置した。また大学に於いては、相模原事務局の研究ユニットの人員を順次増強し、2007年には大学事務局庶務部研究支援係を、大学事務局学術研究推進部とし職員人員の増強を行った。

#### 2. 著作権についての啓発と商標マニュアル

青山学院知的資産連携機構は、機構委員会の下に各専門委員会を命題に応じて設置できる構造になっている。初年度は教員と職員、及び外部専門家による基盤策定、著作権の啓発、知財台帳、知財クリニックの4つの専門委員会をからスタートし、技術移転や特許出願については知財クリニックで個別に相談を受け付けながら、学院内への啓発を始めた。おりしも、インターネットに関係したデジタルコンテンツの配信に関する著作権問題については、大学のeラーニング研究が盛んで関心が高まり、開発における権利処理支援を行った。校章などの商標の取り扱いについては、校友や保護者、学生からの関心が高く、商標マニュアルを改訂し、積極的に正確に活用することを呼びかけた。商標登録されている大学マスコットを自らプロデュースしたいという学生が現れ、学生部と連携して、「プロジェクト・イーゴ」というマスコットプロデュース団体を立ち上げることができた。

#### 3. 知財クリニックの活動 学校特有のリスクを

#### マネジメントする手法を検討

青山学院の知的資産連携機構は、教員と職員が一体となって学生や学外協力者と連携を構築している組織である。そのマネジメントはキャッシュフローのみならず、アウトカムという付加価値を意識している。青山学院の知的資産の社会還元が、付加価値をもって青山学院にも還元される様、各ステージにおけるリスクを念頭に置きながら実施されてきた。その技術移転活動は、研究者の異動が多いこと、その経済活動は個人事業主に近いこと、国際交流に積極的であるが為にキャッチオール規制などへの配慮が難しいこと、雇用者以外（共同研究者・学生）も発明をする可能性があることなどをかんがみ、企業と同様のマネジメントでは補えないリスクが多く、多くの事例蓄積が重要であると考えた。活動を開始してから、共同研究における出願トラブルやキャッチオール対策、起業のサポートなど、豊富な事例が蓄積された。

#### 4. 青山学院大学発技術をダイヤモンド半導体事業へAGDマテリアル株式会社の設立

さらに技術の活用実績を示し、研究者の知財クリニックに対する信頼を高め、相談件数を増やすことが重要と考え、青山学院大学理工学部澤邊教授の発明による、「大面積単結晶ダイヤモンド自立薄膜の製造方法」を基盤とし、学校法人自らが筆頭株主となり協力企業をつのり、2007年10月にAGDマテリアル株式会社を設立した。専門家とともに技術分析を行ったところ、この技術はダイヤモンド半導体のほか、様々な用途開発が想定され、一企業がその製造を独占するよりも、大学発ベンチャー等が中心となって大学と協力会社による息の長い支援によって、用途開発を展開していくべきコア技術であることが判明したからである。

#### 5. コンソシアムの結成による産学連携と知財信託の検討

ダイヤモンド薄膜の更なる用途開発のため、青山学院大学を中心として、ダイヤモンド事業の大きな展開を実施したいと、コンソシアムの結成を呼びかけたところ、現在多くの企業より参加表明を得られている。さらに、数社と技術・業務提携を結び、新しい用途開発ステージも見通しがついている。

#### 4. 産学官連携戦略

青山学院は、青山学院大学法学部菊池純一教授の構想の下、知的財産の譲渡に基づく資産収益管理（知財信託等）を視野に入れて知的財産活用の基盤を整備することを戦略的基軸にしている。その具体事例として、「AGDフラットダイヤモンドコンソシアム（仮称）プロジェクト」を取り扱う。これは、大学発技術（技術ノウハウを含む知財パッケージ）の用途開発目的のテストベッドを大学が中心となって運営管理し、参加企業との連携を相互互惠の下で活性化することによって、ダイヤモンド産業の展開を目指す主旨のものである。つまり、知財をベースにしたオープンイノベーションのモデルケースである。

本コンソシアムに参加表明している企業は、

- ・ ダイヤモンド薄膜の製造装置の製造と販売を行うメーカーと商社と両方の機能を持つ企業
- ・ ダイヤモンド薄膜を仕上げ表面研磨を行う企業
- ・ 薄膜の加工技術に優れ新たな製品展開を行っている企業など他多数である。

現在、各社と技術提携契約を結び、2008年度からのサンプル供給に向かい、準備を進めている。また、コンソシアムの運営には、そのマネジメント支援および事務処理は知財クリニックに加え、各研究支援部署の職員が支援担当することになる。その体制構築のためにも、外部専門家との協力が必要である。

このコンソシアム事例を基にして、古くなっている内規の改定のコーディネートを行い、さらに実施において柔軟で選択肢のある契約を締結する必要がある。そのためには、研究支援現場に関わる職員の交渉力含めた知財リスク管理スキルのトレーニングが必要となる。さらに、現在提携している技術分析ポートフォリオを構築するシステムのライセンス本数を増やし、提供企業との連携トレーニングによって基本的な技術調査や類似発明の検索などをできる職員を増やしてゆくなどのアクションプログラムを立案している。

アクションプログラムの骨格は、以下の段階を踏まえ産学連携による知的財産活動基盤の強化を組み込んでいる。

1. 基本的なルール整備と人材育成を伴う基盤の強化。

2. 産官学連携会議や国際特許流通セミナーなど、積極的なセミナーへの参加。
3. 大学技術移転協会や大学行政管理学会に参加し、多くの大学関係者と積極的な意見交換を行う。
4. 運用テストマシンを導入し、知財クリニックによる知財マネジメントシステムの増強。
5. 青山学院大学法学部大学院ビジネス法務コースの各専門実務教員によるレクチャーや産官の実務家による勉強会の開催。
6. リスク分担を目的とした知財信託の設定のための知識と事例の蓄積、検討。
7. 以上をテストベッドとした大学知的財産マネジメントモデルの紹介。

青山学院大学は法学部大学院ビジネス法務専攻に、税務、人事、知財、金融の各コースを設け、多くの実務家を招聘し、社会人実務家の育成及びスキル向上に貢献している。

知財クリニックにおいては、ビジネス法務博士課程や修士課程の学生を「知財インターン」として受け入れて、知的資産構築活動に参加させている。知財クリニックでは、教育と研究と実務の融合活動が稼動している。

これらのノウハウを可視化し、共有し、活用することが重要である。知的資産連携機構の事務担当者のみならず、大学が直面するリスクに一番身近である研究支援部署の職員が、大学の知的財産を社会に還元するマネジメント力やコーディネート力を獲得することが急務であると考える。知財のリスクマネジメントの対策が有効に発揮できる方法を定着させるための努力を継続している。

## 5. 事業計画

### ① 現状

現在、知財クリニックにおける「知財インターン」は1名（博士課程院生）で、技術分析や知的資産の財産化の業務支援にあっている。研究支援部署は、日常の研究費執行や外部資金獲得に忙殺されているが、人員も若干増強された。

しかしながら、発明規則の改正、契約書雛形の刷新等の業務も山積している。また、一部の発明は外部のTLOに委譲しているがそのリスク管理は多岐にわたり不安定である。技術マーケティング報告の分析も必要になっている。

### ② 体制

知的資産連携機構の事務室は本部総合企画部の事業開発・推進グループ内におかれ、担当職員1名、知財インターン1名、青山キャンパスの大学事務局学術研究推進部9名、相模原キャンパスの研究支援ユニットは事務実務担当8名、以上合計19名の職員に加え、法学部大学院ビジネス法務の教員、国際マネジメント研究科（MBAビジネススクール）の教員などのアドバイスの下、学内連携をとっている。

さらに、特許を中心とした技術分析システムの開発会社と連携をとっている。顧問弁理士1名、弁理士・弁護士2名、大学法学部教員で弁護士資格を持つ者2名の協力も得ている。

### ③ 機能・活動

大学の研究支援部署は現在までは外部資金獲得と研究に関わる経理執行の支援が中心であったが、2007年度までに徐々に体制が強化されてきたので、技術の社会還元のマネジメント支援機能を開発し活動に参画することができる状況になった。

知的資産連携機構は、様々な分野の専門家相互の通訳となるようなコーディネーター機能を持ち、各プロジェクトの円滑な推進のためのサポート機能を持っている。

法学部のビジネス法務専攻は、知財クリニック推進機構を運営しており、夜間中心の社会人大学院であるため、各実務者に広いネットワークを持ち、必要な守秘義務を締結した上で、専門家の目から見た様々なリスクをフォローし、協力を得ることが可能である。

### ④ 知的財産の管理・活用について終了後の将来像と年次計画

#### 初年度

- ・各種基本ルールの改定
- ・各種データベースの再編成
- ・知財インターン育成の継続・増員
- ・コンソシアムの設置・運営
- ・知財信託等の設定

#### 次年度

- ・各種データベースの運用テスト及び実施
- ・知財インターン育成の継続・増員
- ・コンソシアムの運用とシンポジウム開催
- ・知財信託等の運用

#### 最終年度

- ・前年度の活動の継続とイノベーションの検証
- ・実用マニュアル・ガイドライン等の作成（イントラネットにて学内周知し、必要に応じて公開する。）
- ・プロジェクト評価及びアウトカム評価の実施

#### 将来像

特定物質（ダイヤモンド薄膜）の知財パッケージを核とした、融合型連携コンソシアムを実施することがプロジェクトの中心となる。新しいダイヤモンド事業分野が日本を発信源として開発されることを期待する。そして、リスク分担を目的とした知財信託の運用が軌道にのり、知的財産の権利者がリスクを軽減した上で、安全な受益権を確保できるようになることを期待する。知的創造サイクルモデルの成功事例となるように努力をするつもりである。

この支援をうけることにより、知の創出を業とする学校のスタッフが知的資産や知的財産の権利を日常業務の中で意識し、大学研究成果の活用マネジメントにひとりでも多く参画する意識を持ち、大学職員としての力をつけ、後進の育成体制が整うことを期待する。

【応募機関名称：青山学院大学】

6. 事業計画の年度別計画

〔事業内容〕

年 度	事業内容
平成20年度	<p>①目標</p> <p>基本的な内規の改定を研究者納得の上で行う。            知財クリニックにさらに自発的な相談が増えること。            研究成果の社会還元のために起業とコンソシアムの設立プロジェクトが、法人・研究者・社会の三極にとって有意義であることを広く理解してもらう。            この事業に関わるスキルを持った職員を増やす。            研究支援現場との連携を強化する。</p> <p>②主な事業内容</p> <p>各種内規、各種契約書雛型の改定。            AGDフラットダイヤモンドコンソシアムの立ち上げ。            コンソシアムによるダイヤモンド薄膜の用途開発支援。            AGDマテリアル株式会社によるダイヤモンド薄膜供給のリスク管理。            知的財産信託（第1号）の設定。</p>
平成21年度	<p>①目標</p> <p>知財インターンの増員。            技術評価の基礎となるポートフォリオを構築するスキルを持った職員を増やす。            研究者、起業家、法務家、連携企業、各種実務専門家の連携をコーディネートできる職員を増やす。            知財クリニックにさらに自発的な相談が増えること。            研究成果の社会還元のために、起業とコンソシアムの設立プロジェクトが法人・研究者・社会の三極にとって有意義であることを広く理解してもらう。</p> <p>②事業内容</p> <p>AGDマテリアル株式会社によるダイヤモンド薄膜供給のリスク管理。            AGDフラットダイヤモンドコンソシアムによるシンポジウムの開催。            ダイヤモンド薄膜の多様化用途の開発支援。            発生した新技術の紹介とその技術評価（位置づけ）を同時に発信する。            知的財産信託（第2号）の設定。</p>
平成22年度	<p>①目標</p> <p>知的財産マネジメント事業に関わるスキルを持った職員をさらに増やす。            そのスキルを整理し、スキル構築の手段とともに可視的コンテンツ化する。            知財インターンの増員。            知財インターンの研修レポート作成。            今回の事業リスクと対策の整理。</p> <p>②事業内容</p> <p>AGDマテリアル株式会社によるダイヤモンド薄膜供給の多様化への対応。            AGDフラットダイヤモンドコンソシアムによる国際シンポジウムの開催。            ダイヤモンド薄膜の多様化用途供給の契約管理等。            発生した新技術の紹介とその技術評価（位置づけ）を同時に発信する。            知的財産信託（第3号）の設定。            知財インターンや関係職員による報告会の開催。            イン트라ネットにおける各種電子ガイドライン・電子マニュアルの公開。</p>

【応募機関名称：青山学院大学】

6. 事業計画の年度別計画

〔数値目標〕

コンソシアム内にて発生した研究成果を、知的財産信託に設定し、3年で6本程度の運用を計画している。下記①～⑥については、ダイヤモンド薄膜と分野が異なる発明についての予想と目標である。

①発明状況

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
発明届出件数	10件	10件	10件	件	件

②特許取得及び管理状況

特許権（国内）	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
出願件数	5件	5件	5件	件	件
登録（権利化）件数	件	件	件	件	件
保有件数	件	件	件	件	件

③特許権（国内）のライセンス等収入

実施許諾・譲渡	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
件数	件	件	件	件	件
件数（TLO経由）	件	件	件	件	件
収入額	千円	千円	千円	千円	千円
収入額（TLO経由）	千円	千円	千円	千円	千円

④共同研究（国内）受入実績

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
受入件数	件	件	件	件	件
受入額	千円	千円	千円	千円	千円

⑤受託研究（国内）受入実績

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
受入件数	件	件	件	件	件
受入額	千円	千円	千円	千円	千円

⑥その他特色ある知的財産活動

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	知財信託の導入を検討	知財信託の導入を検討	知財信託の導入を検討		
	安全と安心のノウハウと実績の出版	安全と安心のノウハウと実績の出版	安全と安心のノウハウと実績の出版		

【応募機関名称：青山学院大学】

7. 資金等計画

①総表

(単位：百万円)

財務状況につきましては、学校法人青山学院のホームページをご覧ください。

②その他（産学官連携人材の派遣・配置）

知財インターンの配置を計画

(単位：人)

	19年度(実績)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
知財インターン受入れ数	1名	1名	2名	3名		

【応募機関名称：青山学院大学】

7. 資金等計画

③ 20年度事業計画の経費内訳

(単位：千円)

別途 事業計画書にて計上しております。

8. 戦略達成のための体制

〔応募機関の体制図〕

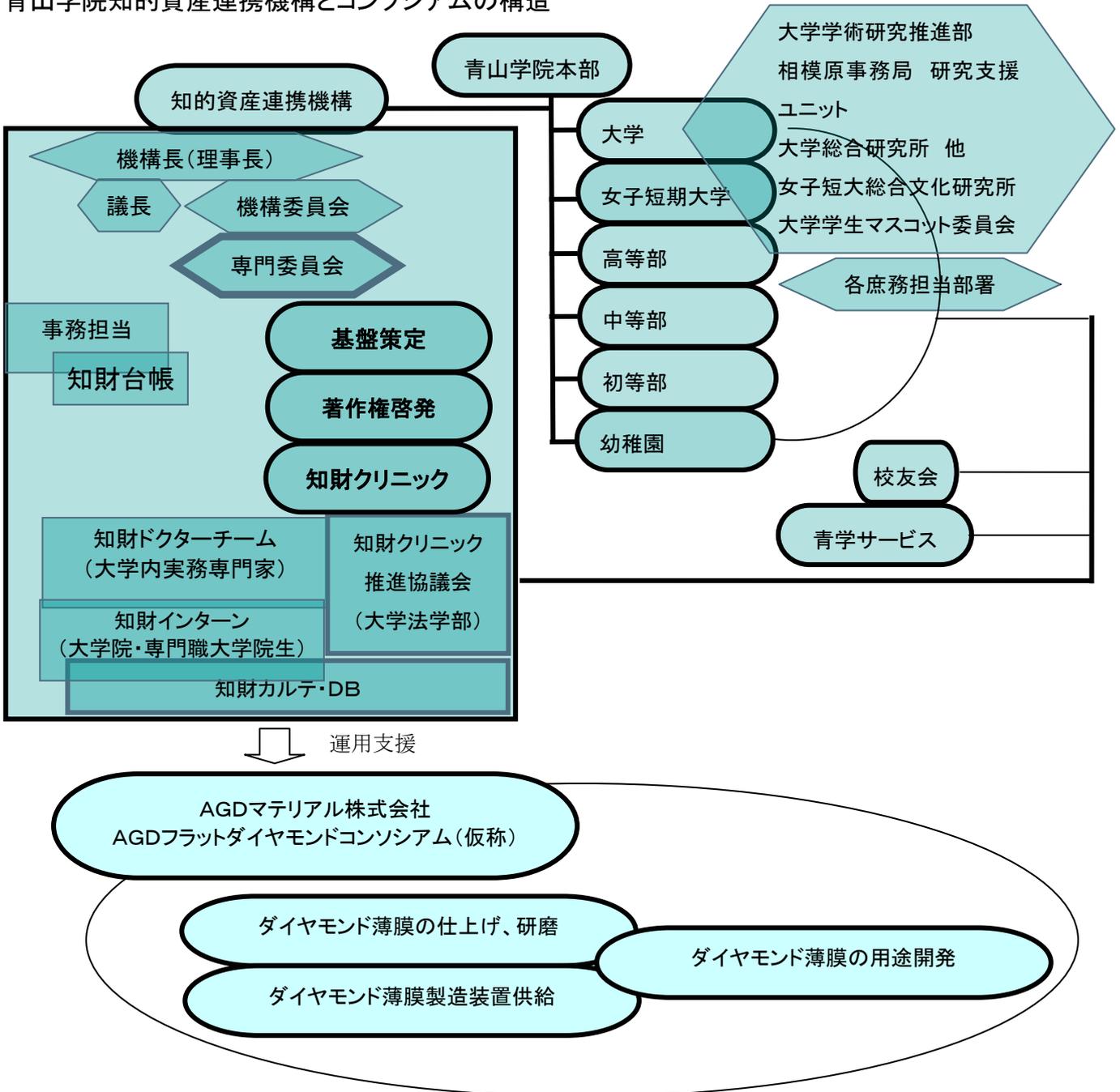
応募機関における産学官連携組織の責任者

氏名：菊池 純一（知財クリニック責任者）

役職：青山学院大学法学部大学院教授

（体制図）

青山学院知的資産連携機構とコンソシアムの構造



- ・ 連携機関の役割分担
- ・ 青山学院：単結晶ダイヤモンド自立薄膜に関する知的財産創出と管理。大学院の専門職実務家教員の連携による、コンソシアムのマネジメント支援。
- ・ AGDマテリアル株式会社：単結晶ダイヤモンド自立薄膜の品質向上と安定供給のための研究開発
- ・ コンソシアム参加者：単結晶ダイヤモンド自立薄膜の用途開発と品質向上の研究

【応募機関名称：青山学院大学】

9. 機関の概要

- ①本部所在地：東京都渋谷区渋谷4-4-25
- ②機関の組織の概略：  
青山学院大学ホームページに最新の状況が掲載されております。
- ③学部等・教員数：  
青山学院大学ホームページに最新の状況が掲載されております。
- ④キャッシュフロー計算書又は資金収支計算書（平成18年度）： 学校法人青山学院  
法人財務状況につきましては、学校法人青山学院のホームページに掲載されております。

【応募機関名称：青山学院大学】

10. 「知的財産の創造、保護及び活用に関する推進計画」（平成15年7月知的財産戦略本部決定）への対応状況等について

①大学知的財産本部とTLOが連携し各種方針・ルール策定の機能強化を図る。

対応済  対応できていない

大学の個人帰属となっている発明規則を、継承を前提として考える方向へのソフトランディング的な改定を検討 学内会の法務実務家と連携

⑥各大学の創意工夫に基づく特色ある大学知的財産本部の整備・充実・強化を図る。

対応済  対応できていない

知的資産連携機構を設置し、機構内に知財クリニックを整備 命題ごとに専門委員会・プロジェクトチームを構成 研究者の相談に対応

②社会貢献が研究者の責務であることを大学等において明確に位置付ける。

対応済  対応できていない

青山学院の設立理念の中に詠われている。

⑦知的財産の創出・保護・活用に関する基本的考え方を確立する。

対応済  対応できていない

キャッシュフローに加え、アウトカムと技術評価を重視し、知的創造サイクルに伴うリスクマネジメントを中心とした知的財産の社会還元事業の育成を行う

③研究者の業績評価は研究論文等と並んで知的財産を重視する。

対応済  対応できていない

知的財産の技術評価結果と、その活用実績を評価する方向にある。

⑧産学官連携と知的財産管理機能を集中し産業界からみた窓口の明確化を進める。

対応済  対応できていない

④透明性・公正性に配慮した評価システムを構築し学内に周知する。

対応済  対応できていない

優秀な研究業績に対して表彰を行っている。

⑨知的財産の機関一元管理を原則とした体制を整備する。

対応済  対応できていない

商標について対応済み

⑤発明に関する権利を承継し実施料収入を得た場合の発明者個人に還元すべき金額の支払ルールを明確化する。

対応済  対応できていない

現在個人帰属である。予約承継についてはソフトランディングを検討中。

⑩特許出願しない発明の研究者への還元や自らの発明を異動先で研究継続できるような柔軟な措置を講じる。

対応済  対応できていない

【応募機関名称：青山学院大学】

⑪産学官連携ルール（営業秘密、共同研究による知的財産の帰属等）や契約書の雛形などを整備し外部に公表する。

対応済  対応できていない

内部資料としては雛形が整備済み  
現在ケースによる選択枝とチェックポイントを記入したガイドライン付のものに改定を検討中。

⑫企業と大学等の協議結果を踏まえた共同・受託研究契約の締結ができるよう柔軟性を確保する。

対応済  対応できていない

⑬起業する研究者の求めに応じた権利の移転や実施権の設定を可能とする柔軟なルールを整備する。

対応済  対応できていない

知財クリニックにて事例毎に必要な調査を行い、ケースバイケースで対応している。

⑭研究マテリアルの移転条件や移転手続きを定めたルールの周知を図り、使用の円滑化を図る。

対応済  対応できていない

雛形の内容が古いので改定中

⑮発明者の明確化、共同研究成果の明確化等に資する研究ノートの記載・管理方法について研究・教育を実施し研究ノートの使用を奨励する。

対応済  対応できていない

相談者に個別に対応・啓発中  
研究室マネジメントガイドの例文には掲載  
イントラネットには未対応

【応募機関名称：青山学院大学】

11. 現状に関するデータ

①発明状況

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
発明届出件数	0件	0件	0件	0件	0件

②特許取得及び管理状況

特許権（国内）	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
出願件数		7件	5件	5件	4件
登録（権利化）件数		0件	0件	0件	0件
保有件数		0件	0件	0件	0件

③特許権（国内）のライセンス等収入

実施許諾・譲渡	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
件数		0件	0件	0件	0件
件数（TLO経由）		0件	0件	0件	0件
収入額		0千円	0千円	0千円	0千円
収入額（TLO経由）		0千円	0千円	0千円	0千円

④共同研究（国内）受入実績

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
受入件数	4件	9件	8件	14件	8件
受入額	30,542千円	15,999千円	6,460千円	13,460千円	5,023千円

⑤受託研究（国内）受入実績

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
受入件数	57件	48件	38件	42件	38件
受入額	237,185千円	143,633千円	90,598千円	138,518千円	76,333千円

⑥その他特色ある知的財産活動

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
知的資産連携機構の活動			知財クリニック活動	知財クリニック活動	知財クリニック活動 知財インターン受け入れ 学校法人出資による大学発ベンチャーの起業
				「安全と安心 青山学院メソッド 幼稚園編」発行	「安全と安心 青山学院メソッド 初等部編」発行